景気動向調査　　期間：2023 年 1 月～ 3 月　作成：川西市商工会

【小規模企業景気動向調査】（令和 5 年 2 月期調査　全国商工会連合会 3 月 24 日発表分 参照）

＜産 業 全 体＞

◇…需要回復への見込みから受注が好調も、採算 DI が低迷する製造業…◇

2月期の産業全体の業況は、コロナウィルス感染症の流行も落ち着きがみられ、外国人観光客等も増え始めたことから、売上額・採算・業況DIが小幅に改善し、全DIで改善の傾向がみられた。旅行支援の効果や、今まで制限の多かった外食などもニーズが高まっている、とのコメントも見られた。しかし、依然としてエネルギー価格高騰等からのコスト圧迫の影響は続いており、採算DIが低調に推移している。

＜製 造 業＞

◇…需要回復への見込みから受注が好調も、採算DIが低迷する製造業…◇

製造業は、売上額DIが大幅に改善し、採算・業況DIが小幅に改善した。物流や品不足が改善され始めたことから売上額DIは改善したが、採算DIは低調に推移している。食料品関連は、全DIが改善し、特に売上額・採算DIが大幅に改善した。旅館へ卸を行っている事業者にて売り上げが好調である、とのコメントがあった。繊維関連は、売上額DIは大幅に改善し、採算DIは小幅に改善した。夏物衣料の需要を見越した受注 が増え、回復傾向にある。機械・金属関連は、売上額・業況DIが小幅に改善した。

＜建 設 業＞

◇…コスト高騰に係る価格転嫁への対応で、明暗が分かれる建設業…◇

建設業は、全DIが改善し、採算DIは大幅に改善し、また業況DIが10pt近い改善となった。年度末に向けた受注が好調であることから、売上額DIがプラス水準となった。一方で、業界全体としてコスト高騰分を価格転嫁できているか、否かで業績の明暗が分かれ始めている。一部の事業者での価格転嫁に踏み切れない要因として、消費者や長年関係のある取引先へ与える負担が大きすぎる、とのコメントが見られた。

＜小 売 業＞

◇…需要回復の兆しから売上額DI は上向くも、採算DI が低水準で停滞する小売業…◇

小売業は、採算DIは大幅に改善し、売上額・資金繰り・業況DIが小幅に改善した。衣料品関連は、採算・資金繰り・業況DIは大幅に改善し、売上額DIは小幅に改善した。 季節の変わり目における衣料品需要や、価格転嫁が進んでいることなどが、全DIの改 善に繋がった。食料品関連は、売上額・採算・業況DIが大幅に改善した。耐久消費財関連は、採算DIが小幅に改善した一方で、物価高騰により単価の高い商品への買い控えが見られ、売上額・業況DIが小幅に悪化した。

＜サービス業＞

◇…需要は高まるもコスト高騰の影響から、採算の改善までいたらないサービス業…◇

サービス業は、売上額 DI は大幅に改善しプラス水準となったが、業況 DI はわずかに 悪化した。旅館関連は、国内外の観光客が増え続けており、売上額 DI は小幅に改善した。一部の事業者では旅行割の支援金が振り込みまで 1～２ヶ月程度かかるため、資金繰りに困っている、とのコメントがあった。クリーニング関連は、コスト高騰の影響から脱 せず、業況 DI が大幅に悪化し、採算 DI は５期連続で悪化している。理・美容関連は、売上額・採算 DI が大幅に改善した。

産業全体

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲3.6	0.8	4.4
採算	▲50.5	▲45.7	4.8
資金繰り	▲37.7	▲35.9	1.8
業況	▲33.5	▲29.9	3.6

製造業

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲0.4	4.9	5.3
採算	▲54.9	▲51.7	3.2
資金繰り	▲39.9	▲38.2	1.7
業況	▲34.8	▲32.1	2.7

建設業

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲0.5	3.9	4.4
採算	▲52.3	▲45.4	6.9
資金繰り	▲37.8	▲34.9	2.9
業況	▲35.5	▲25.7	9.8

小売業

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲12.6	▲9.6	3.0
採算	▲57.1	▲50.4	6.7
資金繰り	▲45.9	▲43.0	2.9
業況	▲43.1	▲39.9	3.2

サービス業

DI	1月	2月	前月比
売上額	▲1.1	3.9	5.0
採算	▲37.5	▲35.4	2.1
資金繰り	▲27.1	▲27.6	▲0.5
業況	▲20.4	▲21.8	▲1.4

【兵庫県内企業動向調査】

●兵庫県の経済・雇用情勢（県 地域経済課 12 月 16 日発表分）

本県の経済・雇用情勢は、持ち直している。

景況等…企業の業況判断は、足もと改善し、先行きは悪化すると見込んでいる。

需 要…個人消費は、持ち直している。輸出は、増加している。設備投資は、減少計画にあるものの堅調である。

生 産…生産は、持ち直しの動きとなっている。

雇 用…有効求人倍率は、前月を下回った。雇用者所得は、弱めの動きとなっている。

金 融…倒産件数は、前年を上回った。

●県内景気の現状についての日本銀行神戸支店のコメント（4月7日発表分）

管内の景気は、持ち直している。個人消費は、持ち直している。設備投資は、増加している。住宅投資は、概ね横ばい圏内の動きとなっている。公共投資は、弱めの動きとなっている。輸出は、増加している。こうした中、生産は、緩やかに増加している。雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を上回って推移している。

景況

現状（良い－悪い）構成比（%ポイント）

区分		R4.6	R4.9	R4.12	R5.3	R5.6(予測)
全 産 業		▲3	3	2	5	2
	大企業	6	8	10	6	6
	中堅企業	▲1	10	3	11	9
	中小企業	▲8	▲2	▲3	2	▲4
うち製造業		▲5	▲1	▲3	▲3	▲4
うち非製造業		0	10	7	17	9

（出所）県内企業短期経済観測調査（日本銀行神戸支店）

【川西市の経済動向等について（中小企業景況調査）】

※経営指導員による巡回時のヒアリングから見える川西市内の動向（３月）について

市内動向

新型コロナウイルス感染症による景気へのマイナス影響が軽微となっている中、市内の3月の景況は、全般的に緩やかに持ち直傾向となっている。春の季節需要も加わり、人流も大きく増加しており、個人消費は外食を中心に個人サービス関連業など幅広い業種で持ち直し傾向を維持。

原油高騰に起因するエネルギー価格の高騰に加えて、資材等物価上昇による事業所の利益率低下による経営環境の悪化からは抜け出せないでいる。

製造業

製造業による生産活動は大きな伸びは見られない。自動車関連や業務用機械関連などでは微増傾向を維持。電子部品関連でも5％程度増加しており、非常にゆるやかではあるが増加傾向を維持している。

建設業

公共工事は大きな減少には至っておらず横ばい傾向。今後の受注増加に期待感。
住宅関連では、建設コストの増加が重石となっており、横ばいから微減となっており、しばらくは回復基調に至るには時間がかかりそう。

小売・サービス業

人流の増加に伴い、百貨店、スーパー、ドラッグストアなどを中心に衣服、身の回り品小売業、食料品小売業などでは、個人消費は順調に伸びている。生活関連サービスでも上昇傾向となっている感じが見受けられ、市内経済を押し上げる原動力となっている。旅行業も回復基調になってきているようだが、受注数が回復基調にある一方で、燃料費高騰や人件費増などによるコスト高が不安定要素となっている。

物価上昇が個人消費に与える影響が懸念されるが、マスク着用の緩和などコロナからの解放感の増大に伴い、経済活動の正常化に向けた動きが活発に進むことが予想され、個人消費は当面持ち直しが継続しながら市内景気を下支えすると思われる。